令和５年度パネル展(会期：令和５年９月５日(火)～12月３日(日))

福岡鉄道遺産ものがたり９

－筑前・筑後・車両編－

1　福岡県の鉄道遺産

福岡県では、明治22年（1889）に九州で最初の鉄道が開通以降、多くの鉄道路線が敷設されました。これら鉄道に関する施設には、戦前から大切に受け継がれているものもあることから、「鉄道遺産」と呼ばれています。福岡県には多くの鉄道遺産が残されており、駅舎や保存車両から廃線跡に至るまで、多種多様な姿を見ることができます。

本展では福岡県の鉄道遺産から、筑肥線や甘木線など筑前・筑後地域の各地に残る駅舎や廃線跡と、県内各地で文化財として守られている保存車両を紹介します。特に、かつて国内最大の産炭地であった筑豊で石炭輸送に活躍した蒸気機関車を複数取り上げ、国民生活や産業発展をエネルギー面で支えた福岡県の近代史の一面に迫ります。

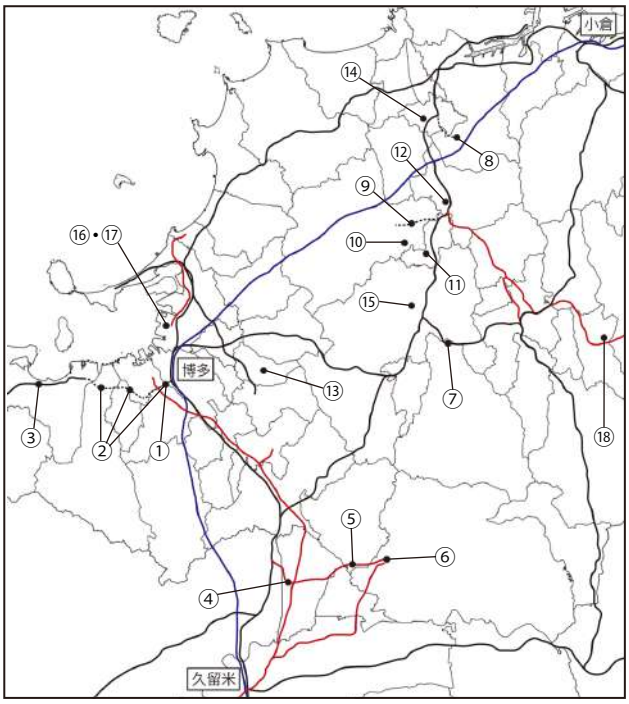
2　筑肥線と甘木線

はじめに、福岡都市圏の２つの路線を見ていきましょう。福岡市と糸島・唐津方面を結ぶ筑肥線は現在、姪浜が始発ですが、昭和58年（1983）までは博多～姪浜も地上を走っていました。この区間は大半が道路に転用され、3つの道路橋が「筑肥橋」と名づけられたほか、道路の形から地図上でも鉄道が走った面影を見出せます。また姪浜以西の現存線区間を見ると、今宿駅では昭和18年建造の木造駅舎が今も稼働しています。

鹿児島本線基山駅から分岐する甘木鉄道甘木線は昭和14年、陸軍大刀洗飛行場への軍需輸送を目的に敷設されました。小郡市内には昭和61年に移転した旧筑後小郡駅のホームが残されています。また太刀洗（地名は「大刀洗」）・甘木の両駅では開業時の駅舎が現存し、太刀洗駅の旧駅舎は現在、私立博物館として活用されています。

本展紹介の鉄道遺産一覧と位置図

	名称	所在地	製造（敷設）
1	筑前簑島駅跡	福岡市博多区	大正15年
2	3つの筑肥橋	福岡市城南区等	大正15年
3	今宿駅	福岡市西区	昭和18年
4	筑後小郡駅跡	小郡市	昭和14年
5	旧太刀洗駅舎	筑前町	昭和14年
6	甘木駅	朝倉市	昭和14年
7	後藤寺線山野の橋梁	嘉麻市	大正2年
8	香月駅跡	北九州市八幡西区	明治41年
9	旧宮田線の路盤跡	宮若市	明治35年
10	アルコ22号蒸気機関車（ロト12号貨車も並置）	宮若市（石炭記念館）	大正8年
11	アルコ23号蒸気機関車（ロト39号貨車も並置）	小竹町（町民グラウンド）	大正9年（輸入）
12	コッペル号32蒸気機関車（ロト22号貨車も並置）	直方市（石炭記念館）	大正14年（輸入）
13	C11 257蒸気機関車	須恵町（歴史民俗資料館）	昭和19年
14	C11 260蒸気機関車	中間市（埴生公園）	昭和19年
15	D60 46蒸気機関車	飯塚市（勝盛公園）	昭和2年
16	49627蒸気機関車	福岡市東区（貝塚公園）	大正9年
17	ナハネフ22 1007客車	福岡市東区（貝塚公園）	昭和40年
18	ヨ9001車掌車	赤村（源じいの森）	昭和43年
-	鳥栖駅	佐賀県鳥栖市	明治36年
-	268号蒸気機関車	佐賀県鳥栖市	明治38年



実線：現存線
点線：廃線（本展関連分のみ記載）
※貨物線・軌道・モノレール等は省略

3　産炭地筑豊の路線と車両

筑豊では明治24年に現在の筑豊本線の一部が開通し、それ以降石炭輸送のために後藤寺線など多くの支線が敷設されました。その中には、現在は役目を終えたものも数多くあります。たとえば中間駅からは明治41年、近くの炭鉱の石炭を運ぶ支線として香月（かつき）線が開通します。昭和60年に廃線となり、終点の香月駅跡の駅名票が当時の姿を伝えます。勝野駅からは、かつて筑豊御三家の一角を占めた貝島の大之浦炭鉱へ向かう宮田線が分岐していました。平成元年（1989）に廃止されましたが、一部の路盤が現存しています。

貝島大之浦炭鉱では宮田線などの旧国鉄（現ＪＲ）とは別に、貝島独自の専用鉄道も運行していました。この専用鉄道の機関車が３両、筑豊で保存されています。アルコ22号機関車（宮若市指定近代化遺産）とアルコ23号機関車（小竹町指定文化財）はアメリカ製で、正面の四角い形状から地元では「弁当箱」と呼ばれ親しまれました。２両とも日本の機関車には珍しい右ハンドル車で、また明治・大正時代の旧式の連結器を残すなどの特徴があります。直方市で保存されているコッペル32号も貝島専用鉄道の車両で、ドイツから輸入されました。３両とも、後ろに貨車を従えた姿で保存されています。この貨車は、主に石炭を掘り出した後の坑道を埋める土砂の運搬に用いられました。

4　各地の国鉄保存車両

最後に、県内各地で保存されている旧国鉄の車両を紹介します。須恵町と中間市には、それぞれＣ11と呼ばれた蒸気機関車が１両ずつ保存されています。Ｃ11は機関車本体に水と石炭を積むタンク式と呼ばれる小型の蒸気機関車で、全国各地で活躍しました。一方、機関車本体とは別の車両に石炭と水を搭載するテンダー式の大型蒸気機関車も現存しています。福岡市の49627（9600型）や飯塚市のＤ60 46機関車です。いずれも筑豊本線を走ったことがある貨物用の機関車で、筑豊各地の炭鉱から掘り出された石炭を若松港や本州へと積み出すのに活躍しました。なお福岡県域ではありませんが、九州歴史資料館に近い佐賀県の鳥栖駅付近にも、明治時代に製造された国産最初期の268号機関車が保存されています。ちなみに鳥栖駅は駅舎も明治36年建築の鉄道遺産です。

また蒸気機関車以外に、戦後に製造された客車などの保存例もあります。たとえば福岡市では昭和30年代から東京と九州などを結んだ寝台特急、いわゆるブルートレインに使われた20系客車が１両保存されています。赤村では貨物列車の最後尾に連結されたヨ9001車掌車が見られます。これらも、日本と福岡県の鉄道史を伝える貴重な鉄道遺産です。

（文化財企画推進室　渡部邦昭）

旧筑肥線・筑前簑島駅跡

アルコ22号機関車

D60 46蒸気機関車

甘木線・旧太刀洗駅舎
（現：太刀洗レトロステーション）

コッペル32号蒸気機関車

ナハネフ22 1007客車

編集　　発行：令和５年９月５日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM
〒838-0106　福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575　FAX 0942-75-7834
URL https://kyureki.jp